

## 株式会社 工進精工所

工進精工所は、1913年（大正2年）、

日本の鉄道事業の揺籃期に鉄道車輛機器部品メーカーとして、文京区巢鴨にて創業しました。

その後移転を重ね、1962年には、前身の練馬工場を高松宮殿下がご視察されています。1968年に現在の狭山市に工場を建設し、2013年、創業100周年を迎えました。

新狭山駅北口から東へ歩くと、川越狭山工業団地の入口ともいえる位置（始めの踏み切り）に事業所を構えており、新幹線の看板（上写真）に目を留めた方は多いのではないのでしょうか。

工業会の毎年恒例の行事『西武線沿いの花（パンジー）を植える集い』では、集



合場所のご提供にも、協力いただいています。

当工場では、JR東海N700系新幹線のパンタグラフをはじめ、JR各社在来線、私鉄のパンタグラフ、ディーゼル車輛の減速機、モノレールの集電装置等の鉄道部品を製造しています。

皆さんのパンタグラフのイメージは『ダイヤ型』ではありませんか。現在は、最先端の研究技術の結果、『くの字型』になっているのにお気づきでしたか。

また、モノレールの集電装置については、日本の主要製造メーカーとして、海外のモノレールについても、数多く手がけています。



新型新幹線N700系のパンタグラフ



在来線用シングルアームパンタ

鉄道部品以外では、自動車部品、油圧部品を製造しています。

大型トラックのウイング開閉用油圧ユニットや油圧シリンダー、トラクターやクレーン車の油圧バルブ等が主な商品です。『日野自動車株式会社』の関係会社であることから、自主研活動を通してトヨタ生産方式を学び、生産性の向上、経営改善に努めています。

工進精工所は、『ものづくり企業』として歩んだ100年の歴史を、次の世代にバトンタッチできるように次の100年を目指し、歩み出しています。

